

自立活動学習指導案

授業日 平成 29 年 10 月 26 日(木)
学習者 特別支援学級(知的障がい) 3名
(3年生1名 2年生2名 計3名)
場所 りんどう学級教室
指導者 教諭

1 題材名

ソーシャルスキルトレーニング 「こんなときどうする？」

上手な聞き方～話し手がまじめな話をしているとき～

2 教材観

(1) 生徒観

本学級は在籍生徒が三人と少人数であり、社会性を身に付ける観点から5教科や自立活動以外は交流学級で学習している。

生徒たちは明るく前向きな気持ちで生活しており、支援学級での学習にとどまらず、交流学級での授業や諸活動にも積極的に参加し、意欲的に臨んでいる。しかし、他者とのコミュニケーションや集団生活において周りを意識した行動などについてはそれぞれに課題がある。

2年男子Aは大人しく、こだわりの強さもあって何事も実直に活動するタイプであるが、なかなか自分から話しかけることができない。また、話しかけられてもうまく受け答えをするのが苦手である。2年女子Bは明るく積極的に行動するタイプだが、突然笑い出すなど場の雰囲気や乱したり、自分の気持ちが優先となり相手がどのような気持ちかを考えない言動が見られたりする。3年女子Cは優しくよく気がつく生徒で、学級ではリーダーとして一目置かれている存在であるが、通常学級ではなかなか級友と適切な距離をとれないようである。

このように他者とのコミュニケーションにおいてそれぞれ課題を抱えており、これからの社会生活を円滑に送ることができるよう課題解決の糸口として、自立活動の時間にはソーシャルスキルトレーニングを積極的に取り入れ他者との関わりの基礎を養っている。

(2) 教材観

2・3学期は自立活動学習で8時間のソーシャルスキルトレーニングを計画している。内容は学校生活において同年代の仲間や目上の人との円滑なコミュニケーションを図るための一助となるスキル学習を選定している。生徒たちは1回1回の学習に真剣に楽しく取り組んでいる。ロールプレイングにより自分たちの姿を客観視することができ、3人ではあるがお互いの感想や意見、振り返りを聞きあうことで場に応じた適切な言葉や態度について考えを深めることができている。

思春期になると行動範囲が広がるとともに、異性や同性、相手の年齢や場面により関わり方を変える必要も出てきて、人間関係や会話の内容がより複雑になってくる。それぞれ受け取りの違いがあることを認めつつも、お互いが不快にならないため、また自分が困らないための振る舞い方を考えるきっかけとして今回のトレーニングを考えた。

ここでは普段何気なく行っている「聞く」という行為を、例示によって比較し、具体的なスキルを生徒が理解し実践できる力を養いたい。今回は「受動的に聴くことの大切さ」について理解を深め、「人の話を聞くということは実は受動的な行為のようだが、実際は能動的な作業であり、一定のスキルも必要となる」ということをロールプレイングの演習を通して理解し、実生活に役立つ能力として養いたい。

(3) 指導観

今回は「上手な聞き方」の学習である。「自分が話の内容を注意深く聞いていることを相手に伝える」ために、非言語的側面(相手を見る・うなづくなど)や言語的側面(「うん うん」「なるほど」など)の重要性を理解し実践できるようになることをねらいとする。「聞き手が一生懸命聞いていることが分かると話し手はどんな気持ちになるか」を考えさせ、聴くことが相手に心理的報酬(相手を受容する、満足感を与える)を与える行為であることに気づかせたい。ロールプレイで「上手な聞き方」をモデリングすることで、目標となるスキルを確認し、3人で練習する。人の話を聞くときに、内容を聞き取ることはもちろんだが、話し手に「聞いていますよ」という意志表示をすることはマナーとしても大切で、円滑なコミュニケーションの形成に繋がることを理解させたい。

本時は知的障がいの特別支援学級での授業であることを考慮し、「上手な聞き方」が必要な場面として学校生活で起こりうる身近な事例を取り上げる。また、意見や感想などを自由に発表できる場を随所に設け、音声による発表は図やイラストなど視覚化した資料によっていつでも眼前にあり、想起できるようにする。教師の発問の意図が正確に伝わるように、できるだけ簡単な言葉を使って丁寧に説明することも心がける。

3 自立活動における2学期ソーシャルスキルトレーニングの指導計画と評価計画

| 回 | 時間 | 学習活動 | 具体的な内容 | 評価規準 |
|---|-----------------------|---|---|---|
| 1 | 2 | 伝達された内容が分からない ～先生が話した内容の意味がよく理解できないとき～ | 困ったときはそのまましないで、もう一度聞き直す、近くの人に聞いてみるなど、できるかぎりのことをすることが大切であることに気づかせる。 | ①言われたことがよく分からないときは、聞き直すことが大切であることを理解できる。 ②伝達した相手がそばにいないときは、分かりそうな人に聞いてみる大切であることを理解できる。 |
| 2 | 2 本 時 / 2 | 上手な聴き方 ～話し手がまじめな話をしているとき～ | 上手に聞くとは、内容を正しく聞き取るだけでなく、態度で受容的に聴いていることを表現しながら聴くことが大切であることを理解する。 | ①相手の気持ちを尊重した話の聞き方の大切さに気づく。 ②相手の気持ちを大切に話す話の聞き方を知り、会話に生かそうとする。 ③良い聞き方は話し手に心理的報酬を与えることを理解し、良い聞き方の大切さを認識する。 |
| 3 | 2 | きっかけ言葉を上手に使う ～提出が遅れたプリントを先生に渡すとき～ | 人に話しかけることが出来ずに大事な用を果たすことが出来なくて、礼儀を知らない等相手に誤解されることがないように、まずは自分の存在に気づいてもらえるように、「言葉」を出すことの大切さに気づかせる。 | ①自分の存在に気づいてもらうためには、まず言葉を出すことが大切であることを理解する。 ②話し始めのポイントを押さえ、話し始めの言葉を上手に使えるようになる。 |
| 4 | 2 | 上手なお願いの仕方 ～委員会の仕事を手伝ってほしいとき～ | 相手の気持ちや立場を尊重しながらお願いをする方法を身につける。お願いを聞いてもらえるかどうかは自分の態度にかかっていることを理解する。 | ①頼み事の理由を述べることができる。 ②依頼の具体的な内容を述べることができる。 ③依頼をした後の結果を受け入れることができる。 |

4 本時の計画

(1) 本時の評価規準

- ① 相手の気持ちを尊重した話の聞き方の大切さに気づく。
- ② 良い聞き方は話し手に心理的報酬を与えることを理解し、良い聞き方の大切さを認識する。

(2) 展開案

| 段階 | 学習活動 | 生徒の活動 | 留意点・評価 |
|--|---|---|---|
| 導入 10分 | <p>1 インストラクション 「良い聞き方」を想起する</p> <p>2 課題の確認</p> | <p>①良い聞き方を想起して発表する</p> <p>「聞き方」のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の目を見ながら聞く ・うなずきながら聞く ・静かに聞く ・聞くこと以外のことはしない ・最後まで話を聞く | <p>意欲的に学習に取り組もうとしているか。⇒発表・観察</p> |
| <p>学習課題 相手がまじめな話をしているとき、良い聞き方をするのはどうして大切なのだろう</p> | | | |
| 展開 30分 | <p>3 モデリング 良い聞き方と悪い聞き方の違いを考える。</p> <p>4 リハーサル ロールプレイを行い、良い聞き方の練習をする。</p> <p>5 フィードバック</p> | <p>②悪い聞き方のモデルを見る。</p> <p>③悪い聞き方で聞かれたときの話し手の気持ちを発表する</p> <p>④話し手として聞き手の態度がどう見えたかを発表する</p> <p>⑤良い聞き方の効果を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し手が話しやすい。気持ちよく話が出る。 ・聞き手が一生懸命聞いていることを話し手に分かってもらえる。誤解されない。 <p>⑥話し手がまじめな話をしているときの良い聞き方のロールプレイを見合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪い聞き方と同じ場面を良い聞き方でロールプレイしてみる <p>⑦聞き手の良かったところを発表する。</p> <p>⑧良い聞き方をされた感想を述べる。</p> | <p>◇聞かれ方によって「話し手」の有用感も変化することを視覚によって捉えさせる。</p> <p>◇悪い聞き方によって聞き手の印象が悪くなることを押さえる。</p> <p>◇悪い聞き方</p> <p>A ノートに落書きをしながら聞く</p> <p>B 話の途中であくびをする</p> <p>C 話を途中でさえぎる</p> <p>相手の気持ちを尊重した話の聞き方の大切さを理解している。 →観察・発表内容</p> <p>活動の中で互いのいいところに気づき認めあっている。 →観察・発表内容</p> |
| 終末 10分 | <p>6 授業を振り返る</p> | <p>⑨振り返りシートを記入し、感想を発表する。</p> <p>⑩学習したスキルを確認し、日常生活でも使う確認をする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学習したスキルを確認する。 ・生活記録ノートに記入する |

(3) 板書計画

〈黒板〉

ソーシャルスキルトレーニング
「こんなときどうする？」—まじめな話を聞くとき
学習課題
相手がまじめな話をしているとき、良い聞き方を
するのはどうして大切なのだろうか？

相手はどんな気持ちになるかな？

悪い聞き方だと？

良い聞き方だと？

良い聞き方をすると
相手は…話しやすくなる。
気持ちよく話ができる。
相手のことを信頼できる。

自分は…一生懸命話を聞いていることを分かってもらえる。
誤解されない。

まとめ
まじめな話の時には良い聞き方を心がけると、話している人は気持ちよく話が出るし、自分も誤解されないのが大切だ。

〈ホワイトボード〉

授業の流れ

- 1 思いだそう
- 2 課題の確認
- 3 悪い聞き方
- 4 良い聞き方
- 5 まとめ
- 6 振り返り

〈3つの場面の提示〉

- ・明日の連絡
- ・仲直りの相談
- ・忘れ物の注意

まじめな話(例)

- ・友達や先生が明日の授業の連絡をする。
↓知らない困るだろうな
- ・友達の仲直りの相談にのる。
↓どうしたらいいか、悩んでいる
- ・廊下で先生と進路の話をする。
↓人生に関わる大事な話
- ・忘れ物をしたことを注意された など
↓次は失敗しないでほしい

松尾中学校授業改善方策シート

| | |
|-----------|---|
| 単元名 | ソーシャルスキルトレーニング 「こんなときどうする？」 ～上手な聞き方 話し手がまじめな話をしているとき～ |
| 課題 | 相手がまじめな話をしているとき良い聞き方はどうして大切なのだろう |
| 振り返りのポイント | 良い聞き方は、自分が一生懸命話を聞いていることのアピールにもなり、話し手に聞いていないのではないかという誤解を与えない。また、話し手がスムーズに話を進める一助となる。 |
| 改善点 | <p>①知的障がいのある生徒の受容量を鑑み、1時間の指導内容をもっとシンプルに焦点化して学習させる。→1つ1つの活動に時間をかける。</p> <p>②学習の中では思ったことを自由に意見交換できる場を随所に設ける。</p> <p>③音声による指示だけでなく視覚化による指示を提示するなど、今何をすべきか、何を考えるのかをしっかりと理解させた上で活動させる。</p> |